

つるやま こふん

鶴山古墳について知ろう！

～基本データ～

つるやまこふん

名前:鶴山古墳

場所:群馬県太田市鳥山町八幡

墳形:前方後円墳

石室:竪穴式石室

長さ:約102m

高さ:後円部→8m

前方部→3.5m

幅:約54m



鶴山古墳調査当時(1948年)

～特徴～

たち とうす

発掘調査の際、石室内からは、甲冑・剣・大刀・刀子・鎌・斧等の鉄製品や刀子、鎌、斧の石製模
ほこ やじり

造品が多量に出土、石室外からも銚や鏃等が出土しましたが、装身具・玉類・埴輪が全く出土

せず、頭骨が発見されないなどの点で不思議な古墳です。

～尾崎先生との関係～

鶴山古墳は1948年(昭和23年)12月、群馬師範学校(現・群馬大学)教授尾崎喜左雄先生の史学研究室によって発掘調査が行われました。

出土した副葬品は群馬大学で保存されることになり(現在は群馬県立歴史博物館へ寄託)、2019年(令和元年)の群馬大学の展示では「石製模造品」が無料で特別公開されていました。